

第2次環境基本計画 前期計画の中間進捗評価について

1. 前期計画の進捗確認の目的

第2次宇都宮市環境基本計画「後期計画」の策定に向けて、目指す環境都市像や戦略的施策の検討に資するため、前期計画における環境目標（指標）や施策・取組の実施状況等について、策定から平成25年度までの進捗状況について中間の進捗評価を行うもの

2. 進捗確認の手法

これまでの進捗状況を踏まえて、前期計画における基本施策ごとに、①環境目標（指標）の達成度合いや、②前期計画で設定された施策・取組の実施状況、及び、外部要因も考慮しながら、総合的に進捗評価を行う。

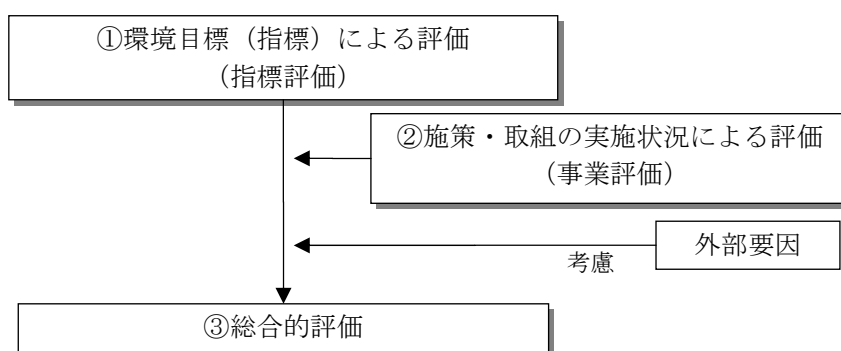


図1 進捗評価の流れ

3. 中間進捗評価の結果

- 計画全体の進捗状況については、「進捗している」B以上の基本施策数が9割を超えているとともに、23の指標のうち、既に目標を達成した指標数が5つ、目標は達成していないものの予定以上の進捗を見せている指標数が2つあり、指標全体の約3割に到達していることから、概ね計画通りに進捗している。
- 特に、環境教育や環境保全活動の促進に関する「人づくり」分野については、3つの基本施策のうちA評価が2つあり、非常に順調に進捗しており、次いで、地球環境分野や廃棄物分野も着実に進捗している。また、生活環境分野についても、事業者と連携した生活環境保全対策の推進以外は、着実に進捗している。
- 基本施策の進捗状況については、水環境や景観の保全、環境学習や環境配慮行動の推進は特に順調に進捗している。一方、生態系の保全や事業者と連携した生活環境の保全対策の推進については環境目標に対する実績値が大きく下回っており、目標を達成するためには、今後、取組の強化や見直しが必要である。

総合評価 基本施策数 17		事業評価（外部要因も考慮）			計
		+	±	-	
指標 評価	A	4	0	0	4
	B	10	1	0	11
	C	1	1	0	2

3-1 分野別の進捗状況

1. 地球環境分野

- ・地球環境分野全体としては、3つの基本施策全てがB+評価であり、概ね計画通りに進捗していると評価できる。
- ・環境指標「公共交通の年間利用者数」については、これまでの取組の成果が表れ始めているものの目標値までの乖離が大きく、今後も取組の充実が必要である。
- ・施策の「新たな地産地消エネルギー施策の展開」や「低炭素型地域産業の振興」については、取組が不足している状況が見られ、取組の見直しが必要である。

2. 廃棄物分野

- ・廃棄物分野全体としては、3つの基本施策全てがB+評価であり、概ね計画通りに進捗していると評価できる。
- ・施策「事業系ごみの資源化の推進」については、取組が不足している状況が見られ、取組の見直しが必要である。
- ・今後も、目標の達成に向けて、取組を維持継続する必要がある。

3. 自然環境分野

- ・自然環境分野全体としては、4つの基本施策のうち半分の「水環境の保全と創出」「身近な景観の保全と創造」がA+評価、「緑環境の保全と創出」がB+評価、「生態系の保全」がC評価であり、緑環境・水環境・景観の保全については概ね計画通りに進捗していると評価できる。
- ・環境指標「『生物多様性』の言葉の意味を知っている市民の割合」は減少を続けているとともに、「生物多様性の保全対策の推進」について取組が不足している状況も見られることから、取組の強化や見直しが必要である。
- ・水環境と景観の保全については、既に目標を達成しているなど、特に順調に進捗していることから、今後は、生態系の保全に力を入れるとともに、緑環境の保全にも取り組む必要がある。

4. 生活環境分野

- ・生活環境分野全体としては、4つの基本施策のうち3つの大気環境、水・土壌等、音・振動等環境の保全がB+評価、「生活環境の保全」がC+評価であり、大気や水などの身の回りの環境の保全に関しては概ね計画通りに進捗していると評価できる。
- ・基本施策「生活環境の保全」については、取組は全て実施されているものの、環境指標「宇都宮市環境協定締結事業者数」はC評価であり、取組の強化が必要である。

5. 人づくり分野

- ・人づくり分野全体としては、3つの基本施策のうちA+評価が2つ、B+評価が1つであり、非常に順調に進捗していると評価できる。
- ・環境指標「環境学習センターで開催する環境講座等の参加者数」と「家庭版環境ISO認定制度認定家庭数」については、計画以上の進捗を見せているとともに、取組内容も充実していることから、環境学習や環境配慮行動の推進については特に順調に進んでいるものと評価できる。
- ・今後は、市民や事業所による環境保全活動の促進する必要がある。

[参考] 評価の基準

表1 指標評価の基準

環境目標（指標）の評価	指標評価
指標の実績値が参考線を上回っている場合，好調に進捗していると評価する。	A
指標の実績値が参考線と概ね一致している場合，普通に進捗していると評価する。	B
指標の実績値が参考線を下回っている場合，進捗が遅れていると評価する。	C

※「参考線」について

(家庭数) [住宅用太陽光発電システム設置家庭数]

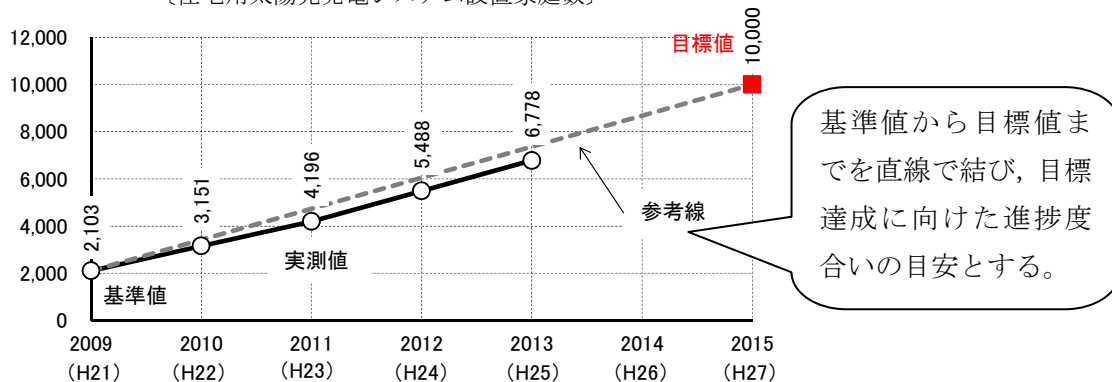


表2 事業評価の基準

取組の実施状況	評価	評価点	⇒	評価の平均点 (評価点の合計 / 取組数)	事業評価	
これまでに取組を実施している。	○	5			4点以上	+
これまでに取組の検討に着手している。	△	3			2点以上 4点未満	±
これまでに取組を全く実施していない。	×	1			2点未満	-